

「PR」
特別企画 | 「衛生管理」

インバウンド急増時代に安心・安全で持続的な宿泊を提供 Valpas(ヴァルパス)のトコジラミ予防 プラットフォーム

キャノンマーケティングジャパン(株)

R&B推進本部 BizDevセンター

問合せアドレス <rb_jcontact@canon-mj.co.jp>

R&Bホームページ <canon.jp/rb>問合せフォームより



「Bed Bug Safe」認証ラベル



Wayfarer(株)
代表取締役 徐 浩然氏
(チュー・ウィンストン氏)



Wayfarer(株)
最高執行責任者/取締役 小出 ランス氏
(ランス・コイデ氏)

コロナ期に開業し旅行需要が回復する中で京都を中心に関西エリアの13施設、現在いずれもフル稼働しているのが、「Wayfarer(ウェイファア) (株) (本社・東京 チュー・ウィンストン社長)」だ。

パンデミック期間中に次世代の旅行者に向けたホテルのあり方をDXで再定義するべく、徹底的にオペレーションシステムを磨き上げた。その運営プラットフォームは「Powered by KABIN」(呼ばれ、Wayfarer(エコノミー)、ORI(アパートメント型)、KABIN(ライフスタイル型)の3つのホテルブランドを展開する。年内には東京にも出店予定だ。

また同社はIT企業としての顔も有し、独自のDXテクノロジー「Material」(Kabin)を開発し、ダイナミックプライシングの導入やセルフチェックインシステム、オンラインでの



Wayfarerが展開するKABIN Taka(京都)

を防ぐというもの。デバイスは既存のベッドの脚に付け替えるベッドレッグ型と脚のないベッドや布団用に据え置き型があり、いずれも枕側に置くだけでよい。そしてホテル側が管理するモバイル、ウェブアプリで24時間管理することで、トコジラミがいない環境であることをリアルタイムで確認することができる。さらにアプリ内のデジタル安全証明を示すことで客室が安全であることをゲストに伝えることができる。害虫が捕獲されるとアプリに通知が届き、アプリ上でトコジラミであるかどうか判断し、安全な処理方法をレクチャーする仕組みだ。Wayfarer 社小出ランス氏は、「Valpas のテクノロジーによって害虫やトコジラミに関しては何もしなくてもよい。何かがあった時だけ通知が来る。冗長性とか時間的なムダが一切ない。この点が強みだ」と話す。

さらにトコジラミのいない安心・安全なホテルであることを示す「Bed Bug Safe」認証ラベルを提供することで、ホテルのウェブサイトでOTA(オンライン旅行代理店)と接続し、Valpas が各部屋に採用されていることを証明し、ア

サービス・コミュニケーション機能、さらには地域の見どころやイベントを紹介するキュレーション型のレコメンド機能などが統合されており、ホテルの収益最大化と旅行者の体験価値向上の両立を実現するオールインワン・ソリューションを持つ。即ち、同社は、ホテルDXプラットフォームのスタートアップでもある。

いずれの施設も訪日外国人が90~95%を占めるといいうユニークなコンセプトを発信して快進撃を続け、「徹底したユーザーインで市場を耕し、旅行者のため、地域のため、そして投資家や全てのステイクホルダーのためにウェイファアのポテンシャルに挑戦している。」(ウィンストン社長)



その「Powered by KABIN」の特長の一つは、世界でも最先端な Valpas 社のトコジラミ予防プラットフォーム(以下Valpas)を採用している点だ。Valpas は、殺虫剤を使わずにトコジラミ被害の心配がない安心・安全で持続的な宿泊を提供するプラットフォームで、特許を有する同テクノロジは、欧州を中心に40以上の都市の300以上のホテルで採用されている。

キャノンマーケティング ジャパンが出資し日本での 事業拡大をサポートする Valpas

この Valpas を日本でプロモートしているのがキャノンマーケティングジャパン(株)(以下キャノンMJ)である。同社は最先端の技術やビジネスアイデアを持つスタートアップとのオープンイノベーションを推進すべく、昨年CVCファンド「キャノンMJ未来ファン」を設立し「Valpas 社(本社:フィンランド)へ出資した。グループ連結で長年にわたってホテル向けのトータルシステムを提供してきた強みを活かしながら「安心・安全でサステナブルな旅行・観光の実現」をテーマに、Valpas の日本市場導入に向けた支援を行っている。

そして、この Valpas を日本で初めて全客室に導入したのが「Wayfarer」グループであり、

ピールしていきこうとしている。実際、欧州のホテルの実績では、この認証ラベルによって、自社サイトの直接予約の成約率が増大し、ゲストの顧客満足度の向上にも貢献している。

つまり、この認証ラベルを普及させることが Valpas の浸透と期を一にすることになるはずだ。

また、宿泊業は監視ビジネスとも言われており、それこそ24時間365日宿泊者とスタッフを守っていかなければならな



Valpasが導入されたKABIN Takaの客室



ベッドに設置された据え置き型デバイス



害虫が捕獲されるとアプリに通知が届く。安全な処理方法をアプリ画面上でレクチャーする。専門知識は不要。



Valpas社のスマートデバイス。あらゆるタイプのベッドに対応。布回タイプの客室でも使用できる



フロントに記されているValpas社の「Bed Bug Safe」認証ラベル



衛生と安全への取り組みを象徴する認証バッジを着用するスタッフ

衛生管理、快適性、そして宿泊客の安心・安全における新たな基準を打ち立てている。

さて、トコジラミ被害は昨年来のインバウンド急増時代に顕著になっている。もともと宿泊施設側では、本件を公にしない側面もあるが、パンデミック以来、衛生管理は宿泊施設の必達目標でもあり、このトコジラミも強い関心事になりつつある。そしてトコジラミ対策は基本、薬剤や熱処理によるものであったが、それによる環境への負荷や駆除・清掃費用等への膨大な費用、それによる客室販売の機会損失やSNS等によるレビュー・インフルエンサー等が課題として浮上している。

一方、宿泊者側も被害を未然に防ぐ手段がなかったらトコジラミセーフなホテルを事前に判断できない。トコジラミ被害による精神的、肉体的ダメージは甚大であり、これらの課題は宿泊者・ホテルの両サイドにのしかかることになる。こうした課題に、新しいグローバルスタンダードで解決するのが Valpas である。

具体的なもの機能は、Valpas のデバイスでゲストが持ち込んだトコジラミを捕獲・駆除し、トコジラミの被害拡大

全と健康面でのケアがされていると実感できる、正に安心の証だ。」と小出氏は語る。

この最終的なスタッフによる確認と Valpas による「衛生管理」のデジタル化、可視化を通じて、スタッフのポテンシャルの最大化と施設全体のプレゼンスをより高めていけることだろう。そして、キャノンMJとValpas社の両社で、宿泊業界の新しい衛生管理と顧客満足時代のリーダーしていくことに期待したい。